

田舎暮らしを楽しむ

(7)

佐藤 彰啓



あちこちあるいてイメージに合った場所を選ぶ

田舎暮らしがうまくいくかどうかは、ひとえに「物件選び」にかかってくる。今回から六回にわたって「失敗しない土地探し」について解説してみたい。

まずは、田舎物件の情報をどう入手するかである。入手法には、大きく分けて次の四つがある。

①書店で販売されている田舎暮らし雑誌の物件広告②田舎暮らし専門の不動産会社が発行する情報誌③インターネット④地方の不動産業者。

特に、田舎に出かけて飛び込んだ不動産業者のところ

最低2地域5物件比べる

土地探し(1)

でいきなり勧められ、気に入ってもすぐに決めないこと。「安くしてお買い得」という言葉にも惑わされない。最低二つの地域で五物件以上を見学してから、じっくりと決めるべし。比べることで、自分のイメージする田舎暮らしに合うかどうか分かるし、それまであいまいだったイメージも固まってくる。この作業は田舎暮らしに入る前の儀式と考えてよい。

土地探しでは、都会の土地と田舎の土地の違いを知っておくこと

も必要である。都会で購入する土地は、ほとんどが区画分譲された宅地。価格も鉄道沿線や駅からの距離で決まり、いわば極めてデジタルである。それが田舎ではまことにアバウトでアナログなのである。

田舎の土地は自然界の一部と考えられ、一度も取引されていない土地も多い。境界も「あの大きな木からこの川まで」と極めておろかな場合がある。取引事例の少ない地域では、いわゆる「相場」が形成されていない。売り主側の事情で、出されている価格もあるので、交渉の余地があるかもしれない。

田舎の土地は、傾斜地があったり敷地内に泉があったりと、一つひとつが実に個性的で変化に富んでいる。土地の利用法もその人次第。そのため物件情報を見て田舎に出かけてみると、「似て非なるもの」ということも多く、また逆に「掘り出し物」ということもある。いざれにしる購入の決断をするときには、条件面などであまり神経質にならず、田舎的なおらかさを持つことが重要である。

(ふるさと情報館代表)